

16 オスカー・フウルピウス(一八六七—
九三六)と日本の草創期整形外科医達

蒲原 宏

日本の整形外科の草創期に林暁(一八六六—一九四四)・田代義徳(一八六四—一九三八)・松岡道治(一八七四—一九五三)・住田正雄(一八七八—一九四六)の四人が渡独しているが、そのうち林、田代、住田の三人は Heidelberg 大学の整形外科ポリクリニク主任で助教授の Oscar Vulpius (1867—1936) に学んでいる。三人とも日本では東大の外科のドイツ人教師スクリバ (Jurius Karl Scriba 1848—1905) の門下生であった。最初に留学した林は明治二八年(一八九五)から明治三〇年で、帰国後、外科及び矯正外科を標榜し林病院を開設した。

林が Vulpius の下に学んだのは、Vulpius の所属する外科学主任 Viencenz von Czerny (1842—1916) とスクリバが Würzburg 大学外科 Hermann Mass (1842—

1886) 教授の教室で一緒に学んでいた関係で紹介され整形外科部門でも研修を受けることになったのである。明治三年(一九〇〇)に渡独した田代はやはりスクリバから紹介され、かつて Würzburg 大学で Mass 教授の下で同門であったが、ベルリン大学へ整形外科教室の主任となって転任した Albert Hoffa (1859—1907) に学んだ後、Czerny の助教授 Vulpius から整形外科を学ぶことになった。

田代はここで腱移行術、同形成術とともに、Vulpius が力を入れていた肢体不自由児の療育と骨関節結核に対するサナトリウム方式による治療について学び大きく開眼する。田代が柏倉松蔵(一八八二—一九六四)とく夫妻が設立した日本最初の肢体不自由児療育施設柏学園の運営を援助し、また骨関節結核児のために寛徳園、市立光明学校の開設などの社会活動の中に整形外科を生かして行くこととなる。この仕事は高木憲次(一八八八—一九六三)に引つがれ発展し現代に至っている。

住田も Max Wilms (1867—1918) に従学の後 Vulpius に腱手術を学び、その後関節形成術を指向して Erwin

Payr (1871-1946) についてのことである。

松岡が Vulpinus を訪ねたか否かは資料を欠く。

日本からの初期整形外科留学者に可成強いインパクトを与えた Vulpinus の生涯とその業績について調査した概略を紹介しておく。

Vulpinus は一八六七年一月三〇日Baden州Boxbergに生まれ、一九三六年七月二八日Bad Rappenauで自動車衝突事故で即死した。享年六九歳。ハイデルベルグ、ベルリン大学で医学を学び、一八九〇年医師試験合格、一八九一年—一八九六年までハイデルベルグ大学外科で助手、一八九四年に整形外科指導医資格を取得、一九〇二年助教授となり同大学整形外科ポリクリニック主任となる。

バーデン地区肢体不自由児施設、整形外科専門病院は、骨関節結核治療を行う特殊なサナトリウム式療育を主目的として運営し、その指導的な役割を果たした。特にその施設は温泉地でSanatorium Soldbad Rappenuaとして骨関節結核治療のメッカとなり大気療法、日光浴なども広く用いられていた。第一次世界大戦では東部戦線で戦

傷患者の治療と戦後の社会復帰に指導的役割を果たしている。

腫形成術による変形の矯正、機能の回復に Vulpinus 法を提唱して好評を得、また上肢の麻痺機能障害に肩関節圧迫固定術を行う新法を提唱している。生涯の学術論文は二八〇篇余である。モノグラフの主なるものとしては Aus der orthopädische Praxis (1898), Mechanische Orthopädie (1902), Die Sepenenüberpflanzung (1902), Die Behandlung der spinalen Kinderlähmung (1910). これは英、仏、露語訳が出版されている。その他 Orthopädische Therapie (1910), Die Ausrüstung des Sanitätsoffiziers (1913), Orthopädische Operationslehre (1913) がある。

Bade Rappenua には Vulpinusstrasse があり、Vulpinus Klinik GmbH は一九一二年来つづいており、一三五床のクリニックが活発に活動している。現所長の Armin Braun 博士は神戸大学整形外科に留学し、柏木大治名誉教授と親交があり、明治時代以来の關係が現代も保たれている。(日本歯科大学医の博物館)